

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	
施 設 名	第一生命ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	8,449	(千円)
	公 演 事 業	5,410 (千円)
	人 材 養 成 事 業	607 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,432 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	0-3歳児と妊婦さんのためのロビー・コンサート～ロビーでよちよちコンサート番外編	2023/8/3・4、 2023/11/27・29、 2024/3/6・7	出演：松谷萌江、印田陽介、北岡羽衣、佐々木匡史、齋藤綾乃他 演目：おもちゃのシンフォニー、他	目標値	720
		第一生命ホールロビー		実績値	673
2	心にひびく歌のコンサート	2023/9/9	出演：東京混声合唱団より 演目：手のひらに太陽を、さんぽ、赤とんぼ、ドレミの歌、他	目標値	860
		第一生命ホール		実績値	364
3	クリスマス・オーケストラ・コンサート	2023/12/10	出演：ARCUS(アルクス) 演目：プロコフィエフ 交響曲第1番、クリスマス・フェスティバル他	目標値	1,530
		第一生命ホール		実績値	1,489
4	子育て支援コンサート	2024/3/2	出演：吉野直子、川田知子、佐久間由美子、村松龍、渡辺真理、他 演目：音楽と絵本「うきわねこ」他	目標値	530
		第一生命ホール		実績値	493
5	トリトン晴れた海のオーケストラ	2023/10/21、 2024/1/14	出演：トリトン晴れた海のオーケストラ、横山幸雄 演目：ベートーヴェン 交響曲第1番、第2番他	目標値	1,080
		第一生命ホール		実績値	1,175
6	室内楽の魅力	2023/11/25、 2023/12/2	出演：バボラーク・アンサンブル、小山実稚恵、矢部達哉、宮田大 演目：ブラームス 弦楽五重奏曲他	目標値	1,140
		第一生命ホール		実績値	1,255
7	室内楽ホール de オペラ～林美智子のダ・ポンテ三部作	2023/5/13、 2023/6/10、2023/7/8	出演：林美智子、河原忠之他 演目：「コジ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「フィガロの結婚」	目標値	1,490
		第一生命ホール		実績値	1,431

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アウトリーチセミナー	2023/10/12 明正小 2024/2/26 中央小 2024/3/22 ロビーコンサート	出演：クアルテット・アベリア、松原勝也他 演目：シューマン 弦楽四重奏曲第2番他	目標値	受講生4 アウトリーチ参加者150 ロビーコンサート80
		中央区立明正小、中央小、第一生命ホールロビー		実績値	受講生4 アウトリーチ参加者108 ロビーコンサート80
2	サポーター研修	2024/1/27	講師：サントリー・パブリシティ・サービス新城亮 内容：接遇研修、サポーター交流会 他	目標値	サポーター参加15
		第一生命ホールロビー、トリトンアーツ会議室		実績値	サポーター参加7
3	ウェールズ・アカデミー	2023/4/17～2024/2/4 (レッスン全33回、公演1回)	講師：ウェールズ弦楽四重奏団 受講生：クワルテット・カノープス、アグノス・クアルテット他)	目標値	受講生8 参加者 ホール公演来場者300
		第一生命ホール(リハーサル室)、東京芸術劇場リハーサル室他		実績値	受講生10 参加者 ホール公演来場者239

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープンハウス 2023	2023/7/22	出演：Sole e Mare、マホムジカ、クアルテット・アベリア、サポーターによる「音のふしぎショー」他	目標値	800
		第一生命ホール、リハーサル室、トリトンスクエアグラウンドロビー		実績値	966
2	アウトリーチ	2023/4/8～2024/2/26	出演：浜まゆみ/TANBRASS/バズ・ファイブ/田村緑/日本音楽集団他、実施先毎に内容を決定	目標値	小学生 1500、幼稚園保育園児 700、中学生 100、高校生 40、発達支援センター 20、介護施設利用者 200
		中央区立小学校 14 校、江東区立小学校 4 校、幼稚園・保育園 6 園、中学高校 2 校、福祉施設等 4 回		実績値	小学生 1758、幼稚園保育園児 525、中学生 216、高校生 30、発達支援センター 49、介護施設利用者 68

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>事業報告書にもあるとおり、ビジョンは「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッションは「音楽によるコミュニティの活性化。音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」である。地域の特性としては、東京臨海都市で人口が急増、特に年少人口を有するファミリー層の増加が顕著で、まちづくりが急務の課題となっている。このミッションと地域特性に基づき事業計画を立て、ビジョンを実現すべく予定通り事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・「公演事業」では、0歳から年齢別にステップを踏んだシリーズ（事業1～4）をつくりホールへの来場を促した。ホール専属で地域の名（晴海）を冠した「トリトン晴れた海のオーケストラ（事業5）」を継続することで地域ブランドを熟成、また、ホールの音響特性を活かした室内楽やオペラ（事業6・7）もシリーズ化し、子どもから大人まで、質の高い音楽を楽しめる流れを組み立てた。公演関連企画として中央区と連携した講座を行い、また適切な広報宣伝など予定通りに事業を進めた結果、完売になる公演も多く、地域住民の鑑賞機会を増やせた。・「人材養成事業」では、予定通り「アウトリーチセミナー（事業1）」を継続、2年目の「ウェールズ・アカデミー（事業3）」では、公開レッスン、動画公開も当初計画どおり実施できた。地域文化リーダーであるサポーター（ボランティア）育成のための研修（事業2）も、外部講師を招いて実施できた。・「普及啓発事業」では、ホール近隣の小学校、幼稚園・保育園、福祉施設等でほぼ予定通りの数の「アウトリーチ（事業2）」を実施。地域で増加する新規住民にホールを身近に感じてもらう「オープンハウス2023（事業3）」をサポーターと実施した。コロナは5類に移行したものの、未だに一部の施設ではアウトリーチが実施できなかったが、全体としては、質・量ともにコロナ禍前水準の活動を行い、多くの地域住民と音楽の楽しさを分かち合うことができた。
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<ul style="list-style-type: none">●文化的意義：公演事業（主催公演）は、すべて当団体のオリジナル企画、制作である。指揮なしのアンサンブルが高い評価を受ける「トリトン晴れた海のオーケストラ（事業5）」は、令和6年度に地方公演（長野県）が決まるなど、日本のオーケストラ界に影響を与えている。親子向け「子育て支援コンサート（事業4）」で創作した「音楽と絵本」は、令和5年度も青森や長崎のホールで上演されるなど、地方ホールに良質なコンテンツを提供できている。人材養成事業の「アウトリーチセミナー」で育った若手演奏家が、普及啓発事業でアウトリーチの内容を深め、別の地域で独自でアウトリーチや公演を行うなど我が国のアウトリーチ発展に貢献。「ウェールズ・アカデミー」受講生から、プロオーケストラ奏者を輩出するなど若手演奏家の発掘・育成にも貢献している。●社会的意義：公演事業では、年代や対象者別の公演実施により、あらゆる人が芸術文化を享受できる社会基盤構築の一翼を担っている。さらに普及啓発事業で地域へ出向くことで、ホールに来られないことで芸術を享受できない人をできる限りなくし、教育・福祉・地域振興などに寄与している。人材養成事業では、サポーター（ボランティア）やアートマネジメントに関心ある学生インターンに文化芸術活動への参加機会を提供、地域住民の交流の場ともなっている。●経済的意義：タワーマンションの建設で年少人口が増加する地域で、年齢別の「子どもといっしょにクラシック」シリーズを継続実施し、25歳以下対象のU25券を設定、普及啓発事業として地域で小学4年生、保育園、幼稚園、認定こども園、発達支援センターでのアウトリーチを継続実施することで、地域の魅力を高め、選手村跡地の「晴海フラッグ」に代表されるような新しい街づくりに貢献している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業指標達成状況

・目標①公演毎のチケット販売数：7事業合計販売枚数：6,660枚（全体目標：7,120枚）、目標の93.5%
※全体としては目標を若干下回ったが、完売となり目標を達成した公演（事業5、6）もあった。高い目標を設定していたが、おおむね達成できたことで、高い来場者率を維持し、多くの地域住民に鑑賞の機会を提供できた。
・目標②子ども券売上枚数：1,045枚（事業2～4、目標：1,400枚）、U25券販売枚数：368枚（事業5～7、目標：560枚）

未達成の要因については、事業2の「心にひびく歌のコンサート」の魅力をうまく発信できずに入場者数が低かったためと思われる。子ども券とU25券合計枚数は、ほぼ前年度（1,491枚）並みとなった。もう1つの指標である「子ども券及びU25券販売数合計が令和3年度の販売枚数1,009枚以上」については目標達成し、若い世代の来場者を増やすことができた。

・目標③全事業合計の公演アンケートによる「大変満足」「満足」の割合は、95.0%となり、目標の97%には若干の未達となったが、アンケートでは自由記述欄で様々な好意的な感想が寄せられており、単純に数字だけで満足度は測れないと感じている。

・目標④チケットデスク顧客分析2023年による全公演のチケット購入者は5,685名となり、目標4,000名を達成できた。また、購入者数に対するリピーター割合は全体で64.7%（目標65%）ほぼ達成となったが、これは新規購入者も増えたためであり、リピーターの数は令和4年度3,441名から3,680名と増加した。

●人材養成事業指標達成状況

目標①アウトリーチセミナー受講生4名の育成：セミナー生4名を育成でき、達成。

目標②アウトリーチセミナー生によるアウトリーチ実施回数：小学校2回（明正小・中央小）と目標回数（3回）に未達だが、アウトリーチの内容を小学校の音楽教諭の希望を聞いて決めている結果であり、弦楽四重奏を選んだ2校では、教諭との打ち合わせを経て内容の濃いプログラムとなった。

目標③アウトリーチセミナー修了生によるアウトリーチ実施回数：8回と目標（7回）を達成できた。

目標④外部講師による接遇研修へのサポーター参加者数：参加は7名で目標15名に未達だが、バックステージツアーや、コロナ禍後初の対面での交流会なども同時に開催することができ有意義な会となった。

目標⑤ウェールズ・アカデミーのオーディション合格者100%ホール公演出演：有意義なレッスンをを行い、目標達成できた。

●普及啓発事業指標達成状況

目標①アウトリーチ実施回数：計30回と全体では未達だが、幼稚園・保育園・こども園、中学・高校は目標どおりの回数で実施できた。未達の理由は、コロナ禍後で再開できない小学校や病院・福祉施設があったこと及び、予定していた小学校が演奏者の体調不良のため次年度へ延期となったためである。

目標②オープンハウス来場者数：966人（2回公演合計）で、目標800人を達成。初めてホールに来た割合：53.4%であり目標60%には未達、オープンハウスアンケートによる地域住民割合：79.2%となり、目標80%はほぼ達成できたが、地域に住む多くの新規顧客にホール来場の機会を提供できたといえる。

目標③小学生への共通アンケートによる満足度は、「とてもよかった」と「よかった」の割合97.6%（目標95%）、「もっと色々な音楽を聴いてみたいと思いましたか」に対する答えは「とても思った」「すこし思った」の割合93.5%（目標85%）でどちらも達成できた。アンケートの自由記述からは、コロナ禍後にアウトリーチで生の音楽の演奏を間近で聞くことが、子供たちにとって非常に印象深い体験であったことがうかがえる結果となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●事業期間

- ・社内の企画分科会資料例にある通り、年間で様々な対象者に向けた公演を計画、数か月前に情報発信、シリーズ毎あるいは数公演まとめてチケットを発売する計画を立てて、発売前から計画的に広報宣伝をし、会員向け先行発売を経て、一般向けにチケット販売した。親子向け公演もアウトリーチ対象の小学校でチラシやコミュニティペーパーを配布してもらうなどしているが、券売にあわせて効率的に配布時期を決めている。
- ・人材育成事業に関しては、「アウトリーチセミナー（事業1）」はほぼ計画通り、外部講師による「サポーター接遇研修（事業2）」についても、昨年に続き外部講師を招いてホールに集合して実施することができた。また、2年目になった「ウェールズ・アカデミー（事業3）」は令和5年3月にオーディションを実施し、受講生10名を選抜、4月から33回のレッスン（うち3回は公開レッスン）を行い令和6年2月にホール公演を行うことで、非常に効果的なアカデミーとなった。レッスンの様子は定期的に撮影し動画をYouTubeでアップするなどして、聴衆だけでなく、今後アカデミーに興味のある若手演奏家にも意義あるものとした。
- ・普及啓発事業について、「アウトリーチ（事業2）」については、病院など一部の受入れ先で未だ実施ができなかったが、学校などには各担当者が年度初めに実施希望時期のヒアリングを実施、演奏家と予定を調整するなどして計画通りに実施することができた。また、「オープンハウス2023（事業1）」は、計画通り適切に実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●収支予算・実績（各事業毎）

（単位：千円）

	公演事業			人材養成事業			普及啓発事業		
	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異
収入	23,600	24,026	426	0	23	23	933	900	-33
支出	32,750	30,940	-1,810	1,335	1,414	79	5,274	4,874	-400
収支	-9,150	-6,914	2,236	-1,335	-1,391	-56	-4,341	-3,974	367

【公演事業】計画的な広報宣伝で早くに完売となった公演では、予想より大幅に事業費削減し効率よく事業を実施でき、収入が当初計画を上回った。支出が減ったのは、早くに売れた公演で広報宣伝費が減ったことに加え、広報宣伝費や稽古場代の支払いが前年度になると助成対象経費から外れてしまうことが主な理由である。

【人材養成事業】アウトリーチセミナーは、オープンハウスで集中セミナーをし、その後小学校で2回実施することで、長期的にリハーサルに取り組むなど計画的に進めることができた。サポーター接遇研修も計画通りに実施できた。ウェールズ・アカデミーはレッスンを公開、オーディションに合格した全員が2月のウェールズ弦楽四重奏団の公演に参加、支出はほぼ計画通りであった。公開レッスン鑑賞をチケットシステムで管理し、興味のある聴衆が少人数ながらも確実に見ることができるようにするため有料にしたことで、当初0円と見ていた収入が若干増えた。

【普及啓発事業】オープンハウスは、サポーターとともに計画通りに運営を検討、ステージ、リハーサル室、グランドロビーで実施できた。アウトリーチについても、コロナの影響で一部実施できない施設があったが、ほぼ計画通りの活動ができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

主催事業の企画立案から実施、振り返りまでを、当団体のプロデューサー中心に制作スタッフ6名が企画毎に演奏家と共に行っており、オリジナルの多彩な事業を展開している。

(1) ホール公演事業

●第一生命ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ（事業5）」を平成27年度に設立し、地域の音楽拠点の象徴として活動している。令和3年11月のベートーヴェン「第九」公演がNHKで放映され、指揮者を置かずコンサートマスター矢部達哉を中心に話し合いでアンサンブルをまとめていく姿が注目され、全国的な話題となり、地域が誇れるオーケストラとして成長している。令和5年度から、令和9年のベートーヴェン没後200年記念年を目指してツィクルスを再始動し、令和6年度は松本公演も決まっている。ホールの特性を活かした室内オーケストラのあり方を追求し、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であると自負している。

●「子どもといっしょにクラシック」は、ファミリー人口が増える地域のニーズに応えるシリーズとして継続。「0～3歳児のためのコンサート（事業1）」、4歳以上入場可の「クリスマス・オーケストラ・コンサート（事業3）」「子育て支援コンサート（事業4）」「心にひびく歌のコンサート（事業2）」などの年齢別シリーズを継続することで、幼少からホールで音楽を楽しむ層を育成、また同時に普及啓発事業で幼稚園、保育園から小学校までアウトリーチを行うことで、年少人口が増える地域の文化拠点としての機能を発揮できた。

●「室内楽の魅力（事業6）」では、バボラーク・アンサンブルによる、ホルンとホールの音響にあった室内楽企画で、管楽器を演奏する若い世代の聴衆なども呼び込んで室内楽ジャンルへの導入とすることを目指し、実際にU25券で多くの来場があった。また事前に講座を聞いてからバボラーク・アンサンブルの公演を鑑賞する区民講座「中央区民カレッジ」で、住民に公演をより深く楽しんでもらう機会を提供するなど地域の文化拠点となった。

(2) 人材養成事業

●若手演奏家のための「アウトリーチセミナー（事業1）」は、近年注目され、また当団体も力を入れているアウトリーチに特化した創造性のあるセミナー。小学生が高い集中力を持って弦楽四重奏曲を聴くことができるプログラムを毎年新たに創造、若手演奏家がアウトリーチの手法を学べる稀なセミナーであるとともに、修了生にはその後アウトリーチで活躍する機会も提供している。地域の子どもたちにとっても他にないプログラムを体験できるものとなり、まさに地域の文化拠点としての機能を果たしている。ウェールズ弦楽四重奏団の「ウェールズ・アカデミー（事業3）」は2年目となり、弦楽四重奏や室内楽の分野で若手演奏家の育成をして、室内楽の演奏家のレベルアップや活動の裾野を広げることに貢献、レッスンを公開することで地域住民に室内楽の音楽作りのおもしろさを知ってもらえる機会となるなど地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮している。また、地域住民がサポーター（ボランティア）として参加できる組織であることは文化拠点として地域の交流を促している。

(3) 普及啓発事業

●小学校「アウトリーチ（事業2）」では、担当者が音楽教諭に個別に学習進捗状況を確認、各担当が演奏家とプログラムを制作し、経験豊富な演奏家が各学校の要望に合わせたプログラムを作っている。中央区と近隣江東区小学校の毎年4年生対象に行うことで、在学中に少人数で密度の濃いアウトリーチを必ず提供できることになっている。

●ホール開館以来毎年実施している「オープンハウス2023（事業1）」は、新規流入も多い地域住民にホールを知ってもらうため無料で開催、入場者は地域住民（中央区・江東区）が79.2%となっており、地域の文化拠点としての機能を果たしている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

・「オープンハウス 2023（普及事業 1）」

「オープンハウス 2023 アンケートから「初めて子ども 2 人と第一生命ホールを訪れました。子どもたちも楽器や音楽に興味を持ったようで、また見に行きたいと言っていました。」「クラシックも日頃余り馴染みがないのですが、ソプラノの歌い方や楽器の紹介も分かりやすくとても良かったです」などホールの魅力が伝わり、顧客分析 2023 年度公演組合せ購入分析から、オープンハウス後に子供向け公演に来場した人数が多いことが分かる。

・「トリトン晴れた海のオーケストラ（公演事業 5）」

アンケートからは「かねてより関心があった晴れオケを初めて体感しました。素晴らしいアンサンブルでした。プログラムはこれまで何度となく聴いた名曲ですが、新たな発見と感動の連続でした。とりわけベートーヴェンの 1 番は白眉で、これだけダイナミックな演奏を指揮者なしで表現できるものかと言葉を失いました。」「年末に指揮者無しで第九を演奏するテレビ番組を視聴し、「晴れオケ」を知りました。オケの皆さんの、文字通り息を合わせて超集中の演奏に感動しました。アンコールで演奏されたバッハのアリアの弦楽器の美しい響きに本当に心を動かされ、涙を流してしまいました」など、地域ホールで地域住民のためにここにしかない質の高い公演が行われていることで、地域の文化芸術の発展につながっている。顧客分析からは、聴衆の居住地は中央区中心だが、全国からも注目を集めており、幅広い年齢層の来場につながっていることが分かる。

・「0～3 歳児のためのコンサート（公演事業 1）」「子育て支援コンサート（公演事業 4）」

アンケートでは「子育てに追われてゆっくり音楽を聴く時間などなく、小さい子どもとコンサートを鑑賞できるとも思っていなかったため、とても楽しく癒されました。」「(0～3 歳児のためのコンサート)、「初めて伺いましたが、大人も楽しめる素晴らしい演奏会でした」「帰り道にお子様楽しかった～と言っている様子も見かけましたが、大人も存分に楽しませて頂ける良い企画だったと思います。」「(子育て支援コンサート)などの声が多くあり、子どもの年齢に応じた公演を継続して行っていることで、幼少時からホールで音楽を親しむ層を作りだしており、地域の文化芸術の発展につながっている。

・「室内楽の魅力（事業 6）」

「小山実稚恵の室内楽・新章」は新シリーズのスタートということもあり、専門誌「音楽の友」での評（令和 6 年 4 月号、山崎浩太郎）で「競奏と協奏の醍醐味にみちている」、専門誌「サラサーテ」での評（令和 6 年 2 月号、中村ひろ子）で「希代の名演だった」と絶賛され、質の高い公演をシリーズで継続していることで地域に音楽がある誇りを生み出している。

・中央区文化生涯学習課との連携企画の実施

9 年前から継続実施している「中央区民カレッジ」は、講義と公演鑑賞を組み合わせたプログラム。令和 5 年度は「室内楽の魅力（事業 6）」の、バボラーク公演を取り上げて実施。区民に対して広報ができ、過去の講座参加をきっかけに、当団体の活動を知りサポーターに登録した方もいるなど地域住民の交流を促している。

・地域のボランティア（サポーター）受け入れ

毎年約 50 名の登録サポーターと共に、ホール事業、コミュニティ事業に関わる活動をしている。大学生、大学院生でアウトリーチを学びたいというサポーター、インターンも受入れているが、過去に小学生の時に当団体のアウトリーチを実際に体験したという大学院生もおり、地域で文化芸術への興味関心を醸成している。

・「トリトンアーツ通信」を年 10 回発行し、アウトリーチ先の小学校、保育園、幼稚園等に児童、園児数分配布している。アウトリーチのレポートなどを写真付きで掲載して、地域に情報提供しているほか、子ども向けの公演への参加、サポーターの登録はこの「トリトンアーツ通信」を見たのがきっかけという例も多い。誰もが参加できる NPO 法人という存在が地域の文化芸術の発展につながっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

- ・組織運営として、すべての事業活動は「事業計画」に基づいて行われ、「理事会」（年4回開催）、企画分科会（月1回開催）等において「社内企画分科会資料例」にあるとおり計画立案及び活動報告と振返りを実施し次の事業に活かしている。企画分科会では各公演・コミュニティ活動について企画・運営について話しあうPDCAサイクルのPlanの機能を担うとともに、実施した（Do）後に、運営面・広報宣伝・アンケート分析等による活動全般の振返りといったCheckも行い次につなげている。また外部の有識者からなる「評価委員会」で活動を第三者視点で評価し（Check）「TAN評価報告書」としてまとめ、内容、提言を事業活動にフィードバックしている（Action）。
- ・人事戦略として、正規職員雇用率は75%。第一生命保険株式会社からの出向者2名以外は全員、プロバナーの制作スタッフであり、公演事業と普及啓発事業、両方を担当することで双方の事業に相乗効果をあげながら取り組めるようにし、実績によってアソシエイト・ディレクター、ディレクターへ昇格の仕組みがある。少人数体制につき体系だった研修が難しいため、各自の自己啓発を外部講習、セミナーを活用し、経費補助を行っている。正職員の平均勤続年数は、14年9か月であり、定着率が高く団体内でスキル、経験を積める制度となっている。また、様々な属性のサポーター（ボランティア）55名（令和6年3月末）が活動に参画できるメニューを用意している。サポーターとの絆を維持・強化するための取組みとして、バックステージツアー及び接遇研修・交流会の実施や、サポーター通信の発行による情報提供などを行っている。
- ・安定的な収益基盤と財源をするため、下表のとおり個人会員・法人会員・寄付金・協賛金等、多様なファンドレイジングに取り組んでいる。令和5年度は、親密先企業などに対して理事長自らが積極的に訪問し、法人会員や寄付の呼びかけを行うなど、「2023年度ファンドレイジング状況」にある通り財務基盤強化に取り組んだ。

区分		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
個人会員	会費	6,720千円	6,430千円	6,330千円
	会員数	645名	618名	612名
法人会員	会費	22,800千円	19,700千円	23,000千円
	会員数	54社	54社	55社
個人寄付金	金額	2,565千円	4,635千円	3,369千円
法人寄付・協賛金	金額	54,229千円	55,104千円	59,204千円
助成金	金額	20,012千円	11,501千円	7,609千円

- ・上記の支援者には広報誌「トリトンアーツ通信」を年10回、レターとともに送付している。また年間の「事業報告書」、「評価報告書」をウェブで公開並びに法人会員に送付している。大口法人寄付者である第一生命保険には、「運営会議」と称して定期的（隔月1回）に活動状況を詳細に報告している。
- ・劇場・音楽堂等間のネットワーク形成のため、東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場と4館連携「若手演奏家支援事業」として、一般のお客様向け演奏会を実施。東京芸術劇場からのアーツアカデミー研修生の研修を引き受けたり、アウトリーチの演奏家として「芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド」の演奏家を受け入れて、スタッフとリハーサルを重ね実際にアウトリーチの機会を提供したりといった交流がある。
- ・教育機関とのネットワークとしては、プロデューサー他1名が平成28年より昭和音楽大学の非常勤講師として、アートマネジメントコースの授業を担当している。学生は毎年インターンまたはサポーターとして受入れており、令和5年度は昭和音大からインターン1名を受入れた。